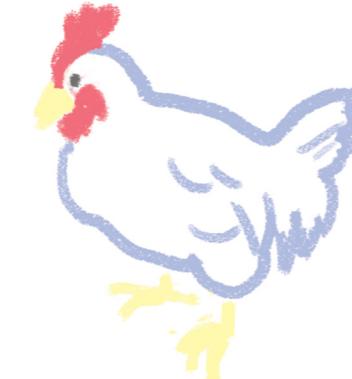




「こんにちは！」

おさない まことのかあお母さまが よちよち あるきながら、
きんじょの人に ひと あいさつをします。
そんな まことのかあお母さまを 見て、人びとは ひと はなしに
はな 花を さかせました。



「あら、まだ 1さいなのに どうして あんなに
あいさつが おじょうずなの」
「どこの おじょうさんかしら？
め、はな、口 どこを 見ても とっても かわいらしいわ」



「ほんとうに かわいいでしょう。あの子が こ はくちやよ。
1さいにも ならないうちに あるきはじめて、ことばも
はきはきと、とっても じょうずなんですって」

「まあ、はくちやの おかあさんが うらやましいわ。
あんなに かわいくて かしこい むすめが いて」

おさない まことのかあお母さまは みんなが 口を そろえて
ほめるほど、かわいくて かしこい 子どもでした。



「おばあちゃん、わたしも やってみたい」
「ほら、とうもろこしは こうやって とるんだよ。
いちど やってごらん」
「こうやるの？」
「そう！ そう！」

おさない まことのお母さまは おばあさん、おかあさんと いっしょに
かあ
うらにわで おお 大きく よく じゅくした とうもろこしを とりました。

「おかあさん、とうもろこしが たくさん あるから、
きんじょの人にも ひと わけてあげようよ」
「うちの ハクチャは、ほんとうに やさしい子だね」

おばあさんと おかあさんは いっしょに とった
とうもろこしを かまいっぱい ゆでて かごに い 入れ
となりきんじょに わけてあげました。



♪うらやまに オキナグサ こしの まがった オキナグサ
わかくとも オキナグサ としを とっても オキナグサ
はははは ハハハハ おかしい いねむりしている オキナグサ
かげろうのなかで どんな ゆめを みるのかな♪

「ははは うちの ハクチャは どうして
こんなに うたが じょうずなんだろうね？」

「ハクチャが 生まれたときの
なきごえも うたごえのようでしたね。ふふふ」

「おじいちゃん、おばあちゃん、
こんどは おゆうぎ 見せてあげるね」

「うんうん、みせておくれ」

かわいらしく うたを うたいながら おどる おさない
まことのお母さまを 見ながら かぞく みんなが
にっこりと ほほえみました。



「おかあさん、どこへ 行くの？」
「きょうかいへ れいはいに 行くのよ」

おさない まことのお母さまは、おばあさん。
おかあさんと 手を つないで 日ようびごとに
きょうかいへ 行き れいはいを ささげました。



「ハクチャが 一りんの うつくしい 花を 見て、
神さまを かんじることの できる いつくしみふかい人に なれますように。
ひろい こころを もった うつくしい人に そだちますように」
「アーメン」

おいのりを おえた おかあさんが、
目を とじ りょうてを しっかり にぎって いのる
おさない まことのお母さまを そっと だきしめてくれました。

「なんて かわいいんでしょう。神さまの とうといむすめ！」

おかあさんの むねに だかれた おさない まことのお母さまは
これいじょう、ほしいものなんて ないくらい しあわせを かんじました。





まことのお母さまは 神さまのむすめとして、
天のはなよめとして たいせつに そだてられました。

ある日の ことです。

きょうかいで ねっしんに せいせいを つくしている人が
おさない まことのお母さまを 見て いいました。

「6さいにもならない おさない 女の子だが
天のはなよめに なる うんめいを もって 生まれている」



まことのお母さまが 6さいの ときでした。

そのころ きたちょうせんでは、神さまを しんじている人たちを
けいむしょに 入れ、神さまを しんじることが できないように していました。

「韓国に 行きなさい」

おばあさんに 神さまの こえが きこえてきました。
おさない まことのお母さまは おばあさんと おかあさんと
いっしょに とても きけんな中、くらい よみちを かきわけて
韓国に むかいました。



「おばあちゃん、ここは どこなの？」

「おかあさん、まっくらで よく 見えないわ」

「しんぱいしなくても いいのよ。

神さまが わたしたちを まもってくださっているから」